

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている				
	やや良く なっている	一般小売店 [酒]（経営 者）	販売量の動き	・市内の飲食店の売上はいまいちだが、ホテルや郊外型の客先が多忙になってきていて売上を押し上げている。	
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・北海道全体での来客数は前年比94%となった。昨年のプロ野球チームの優勝感謝セールの変動から、前年比ベースでは減少となったが、売上計画ベースでは前年比101%となり、全国値の102%と遜色なく推移している。なお前年比を部門別にみると、衣料品が94%、住居用品が99%、食品が95%などとなっているほか、テナント入居している専門店が93%となっており、住居用品を除いた部門では全国に遅れをとっている。	
		家電量販店（地 区統括部長）	販売量の動き	・来年6月の地上デジタル放送開局を控え、札幌地区では薄型テレビの販売台数が前年比300%を超えてきている。	
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・今月は新商品の発売があり、販売量が前年実績を上回った。	
		高級レストラン （スタッフ）	それ以外	・以前から低迷していた店舗の料理、設備等のリニューアルを図ったところ、当該店舗以外にも効果が波及しており、全体的に売上が向上した。	
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・本州客の動きが良くなってきている。海外からの旅行客も増加傾向にある。気候が良いこと、愛知万博の終了、知床及び旭山動物園の効果といった要因が考えられるが、プーム的な影響が影を潜め、入込客の増加に確かな手ごたえを感じる。ただし消費単価の面では厳しいものがある。	
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・今月の売上高は前年と比べて若干良くなっている。一番の大きな理由として愛知万博が終わったことが挙げられる。	
		観光名所（役 員）	販売量の動き	・ロープウェイの利用客、売店の販売額は、3か月前の落ち込みからほぼ前年並みに回復してきている。	
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・以前よりも客の来店頻度が上がってきている。特に再来店までの周期が長かった客において、周期が短くなってきている傾向がみられる。	
		変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き	・販売量に変化はないが、客は価格に対して敏感であり、客単価が低下したままである。
			商店街（代表 者）	お客様の様子	・季節商品の動きは良くなってきていると感じるが、商品購入に対する客の態度は相変わらず慎重なままである。
			商店街（代表 者）	お客様の様子	・秋物の出足は良かったものの、10月に入ってから気温が思ったほど下がらず、秋冬物に対する客の購買意欲が落ちている。
			百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・現在、売上は前年比90%前半で推移している。下旬に開催した食料品の大型催事では例年以上の集客が図られたが、その他の日は、平日はもちろん、土日もなかなか集客が図られない状況である。周辺の店舗も同じような状況であり、商圈としては深刻な状況といえる。
			百貨店（売場主 任）	単価の動き	・例年と比べると気温や天候に1週間くらいのずれがある。前年とほぼ同様の品ぞろえをしているが、圧倒的にコートやスーツなどの重衣料の買上が少なく、低単価商品の買上が目立つ。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・店舗への来客数、買上客数とも前年割れの状態が続いている。	
		百貨店（役員）	来客数の動き	・特別なイベントで強力的に集客を図った場合は、来客数も前年比を上回り、売上も好調である。ただし、それ以外の日では日曜、祭日を含めて来客数が前年を割り込んでおり、結果として売上も前年を下回る状態が続いている。	

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・競合店との価格差で客の買物動向が大きく変化しており、客は商品単価の安い店舗に動いている。来客数だけではなく、客の買上単価も減少している。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・当社の売上状況は大変良好だが、周辺の競合店の状況を聞くと、お盆明け以降、軒並み売上が低迷していると聞いている。
	コンビニ（店長）	単価の動き	・このところ来客数が若干増加しているなど、やや良い面もみられるが、客単価の落ち込みが激しく、最終的な売上に関してはプラスマイナスゼロとなっている。良いか悪いかと考えると、傾向的にはあまり良くない状態が続いている。
	家電量販店（店員）	それ以外	・10月の売上は前年を上回ったが、相変わらず客は値段の安い店を回っている。
	その他専門店 【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・集客イベントや店頭啓もうなど、やれそうな企画は毎月提案して、何らかの策を講じてはいるものの、顧客動向、店頭での購買に変化はみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月はランチ客の伸びもあり、客数が久しぶりに前年をオーバーした。ただし客単価は先月に引き続き前年を下回っており、売上も厳しいままである。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の動きに目立った変化がなく、一向に景気が回復する兆しがみられない。
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・来店客数は一昨年より増加しているものの、客単価が相変わらず低迷している。海外旅行もテロや自然災害の多さが影響して伸び悩んでいる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今年は例年よりも暖かく、客は緊急時を除き、バス、地下鉄に流れているようだ。ススキノにおいても、他の公共交通機関の運行時間を過ぎれば、人出が目立って少なくなる。依然として客の財布のひもは固い。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今年は暖かい日が多く、タクシーを利用する客が大幅に減ってきている。
	設計事務所（職員）	それ以外	・建物新築の企画や構想の引き合いは多いが、実施設計などの具体的な仕事の引き合いはそれほど多くない。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は相変わらず低迷した状態であり、単価も下がり気味の状態が続いている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・愛知万博が終了しても観光客は回復せず、観光客への依存度が高い飲食店は軒並み前年を割っている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・冬を控えて石油製品の値上げによる買い控えがじわじわ出てきている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・例年10月に大きな企画を実施しているが、今年はその期間の売上が約20%ダウンしている。来客数も今月に入りトレンドから約4%減っている状況である。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前の7月から9月まで右肩下がり推移している。10月については販売量が前月比102%となったが、前月より営業日数が1日多いことを考慮すると、やはり景気は悪いままである。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・当社の数字は厳しくなってきたが、それ以上に周辺のスーパーマーケットのチラシが増えている。売上を確保するために今まで以上に販促を打ち出して売上を上げようとする姿勢がみられる。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・展示会の客の入りが悪い。去年同様、灯油等の心配などから来客数が少なくなっている。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・先月後半から業種を問わず、客足が鈍っている。販売量、販売額共に落ち込みが激しい。気温の高さもあり、季節商品の売行きが鈍い。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は販売数も良くないが、来場者数も大分減ってきている。
	住関連専門店（従業員）	販売量の動き	・冬物の売上が芳しくない。
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・ランチについては後半に入ってから近隣の男性ビジネスマンが来店するようになり、前年の売上を超えた。夕食については、個室で観楓会代わりの高単価の夕食会が数件あり、前年を上回った。全体の売上額はほぼ前年並みであるものの、全体の予約状況は悪かった前年から更に落ち込んでおり、消費動向はやや悪いと感じている。

		スナック（経営者）	競争相手の様子	・周りの店も暇な様子であり、閉店する店が相次いでいる。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・週末の雨続きで客足が伸びず、半年ぶりに前年比が減少となる見込みである。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・道内の温泉旅行は活発化しているが、本州方面への旅行や高額商品の販売額が伸び悩んでおり、来店客数も昨年から10%以上減少している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・選挙終了後は需要回復に向かうのが普通だが、今回は選挙前よりも需要が減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーの利用は天候に左右されるが、10月は暖かい日が多く、雨の日も少なかったため、タクシー利用客が減っており、売上も昨年と比べて、大きなマイナスとなっている。
	悪くなっている			
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	その他サービス業 [システムハウス]（経営者）	取引先の様子	・新しい受注案件の話が頻繁に聞こえてくる。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・質の高い請負物件が比較的好調である。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・輸送関係では、相変わらずフェリーの燃料の高騰や輸送量の減少がある。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・需要や引き合いは比較的好調であるが、引き続き価格面での値下げ圧力が強く、3か月前と比較して横ばいのまま変わらない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・受注量など取引先の様子で大きな変化はないが、ここ数か月同業他社と全く競合しなくなった。そういう意味では景気が悪いとも言える。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は幾分増加しているが、道内一般企業向けは低迷している。また原材料価格の上昇は、価格に転嫁することが難しい道内企業の収益を圧迫している。また観光業界は知床の世界自然遺産への登録効果や旭山動物園の効果で持ち直しつつある。個人消費は薄型テレビなどの家電製品を除き、スーパーなどの小売業界は買上点数、客単価とも低下している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引あるいは建物の建築着工の状況から判断して、依然として低水準で推移しているものとみられ、変化はない。
		その他サービス業 [建設機械リース]（営業担当）	受注量や販売量の動き	・季節的な変動だけで傾向的には変わっていない。
	やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・たばこ工場の閉鎖や観光入込客数の減少の影響から、函館の製造品出荷額は4月以降、減少している。製造業の事業所数及び従業者数は大きく減少しており、業界全体の状況は厳しく、見通しは暗いままである。
輸送業（支店長）		受注価格や販売価格の動き	・運賃単価の改定が困難な中で、ガソリン、重油などの燃料費がアップしており、貨物の入荷がここに来て減少してきている。経営が圧迫される状況がはっきりしてきた。	
輸送業（営業担当）		取引先の様子	・紙パルプメーカーでは、原油価格の高騰から原材料コスト削減のため代替品調達に躍起となっており、作業コストが高い取扱品目、ロットが増えている。メーカーに求償できない分、厳しい状態が続いている。	
その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）		取引先の様子	・原油価格高騰に伴い、車両保有業者、サービス業の暖房費、油を燃料とする発電機保有業者などにおいて想定外のコスト増が生じている。	
		その他非製造業 [機械卸売]（従業員）	受注量や販売量の動き	・金属加工、製造に供される生産財の需要が見込み以上に低い傾向を示している。上期と比較しての減少率が、10月時点で早くも予想より高くなっている。
	悪くなっている			

雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・中高年の求人は相変わらず厳しく、企業内においては中高年の雇用調整の機会をうかがいつつ、その反面、新卒や30歳前後の人材の確保を検討している。これは単に経費削減だけでなく、企業が先に向けた、施策を見据えた動きになってきている兆しのように見える。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・今まで求人件数増のけん引役だった建築業、建設業が前年比で4%程度のマイナスになったものの、小売、飲食、運輸物流、人材派遣等の求人が目立った伸びを示している。
		学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・秋採用、通年採用ということで求人依頼に来る企業が増えている。これは新年度の採用予定者が確保できていないことを示している。
	変わらない	求人情報誌製作 会社(編集者)	雇用形態の様子	・人材派遣請負業者の求人広告の依頼が増えているものの、正社員の求人は相変わらず低調である。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・時期的に求人件数が減少しているのは例年通りであるが、小売、サービスでは微増している。ただし、その業種を取り巻く業界は今一歩活性化していない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・パート求人の割合が40%を超えており、正社員の求人が少ない。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・最近まで増加傾向にあった求人数が、横ばいになってきた。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比で26.3%と前月に引き続き増加となった。産業別にみると、卸小売業、建設業、製造業が増加となり、不動産業が減少となった。なお4月から9月までの累計では前年比で17.8%の増加となっている。
	やや悪く なっている	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数が前年比で1.3%の減少と9か月ぶりに減少に転じた。パート求人数も2か月ぶりに減少しており、前年比でマイナス12.7%と下落幅が大きい。
悪く なっている	-	-	-	